

平成 25 年度 第 1 回
柏原市子ども・子育て会議
議事録

日時：平成 25 年 9 月 27 日（金）14 時～16 時
場所：柏原市立勤労者センター（K. I ホール）

参加者：小松 孝至 (大阪教育大学教育学部准教授)
近藤 温子 (柏原市 PTA 協議会母親部会長)
田中 昌之 (柏原市私立幼稚園代表 第二白鷗幼稚園園長)
谷向 みつえ (関西福祉科学大学社会福祉学部教授)
中野 美奈子 (柏原市市民代表)
西 育代 (主任児童委員)
福岡 雅子 (柏原市市民代表)
藤井 宏之 ((株) ジェイテクト国分工場 工務部総務課長)
藤宇 敦子 (柏原市市民代表)
三木 賢蔵 (柏原市放課後児童会連絡会代表)

(事務局)

植田部長 (柏原市健康福祉部)
山角課長 (柏原市健康福祉部こども課)
杉本課長補佐 (柏原市健康福祉部こども課)
石橋係長 (柏原市健康福祉部こども課子育て支援係)
兼嶋主事 (柏原市健康福祉部こども課子育て支援係)

(欠席)

川渕 良太 (柏原市労働組合協議会代表)
北畑 英樹 (柏原市民間保育園協議会代表 (かしわ保育園園長))
永野 智江 (柏原市立保育所連合父母の会代表)
西村 龍夫 (柏原市医師会代表)

議事次第

1. 開会
2. 健康福祉部長よりあいさつ
3. 委嘱状の交付
4. 委員紹介
5. 事務局紹介
6. 柏原市子ども・子育て会議の概要説明
7. 議事
 - (1) 会長および副会長の選出について
 - (2) 子ども・子育て支援新制度について
 - (3) ニーズ調査について
 - (4) 連絡事項
 - (5) その他
8. 閉会

会 議 録

1. 開会

【事務局 山角課長】

＜開会宣言＞（会長が選出されるまで会を進行）

2. 健康福祉部長よりあいさつ

3. 委嘱状の交付

4. 委員紹介

【各委員】

（自己紹介）

【事務局 山角課長】

柏原市子ども・子育て会議条例第4条第2項の規定による会議開催に要する半数以上の定足数を満たしていることを報告。

5. 事務局紹介

【事務局】

（自己紹介）

6. 柏原市子ども・子育て会議の概要説明

【事務局 石橋係長】

柏原市子ども・子育て会議の概要について説明

7. 議事

（1）会長および副会長の選出について

【事務局 山角課長】

それでは、この会の会長・副会長の選出を行いたいと思います。選出方法は、柏原市子ども・子育て会議条例によりますと、委員の互選によるものとなっております。

【藤井 宏之委員】

みなさん、今日が初めてですので、事務局に一任したいと思います。

【事務局 山角課長】

宜しいでしょうか。事務局の方からご指名させていただきます。会長には、関西福祉科学大学谷向教授にお願いしたいと思います。副会長には、大阪教育大学の小松先生にお願いしたいと思います。如何でしょうか。

【委員全員】

拍手

【事務局 山角課長】

それでは、谷向委員には会長、小松委員には副会長をお願い致します。

【谷向会長】

今回、会長に選任されました谷向です。宜しくお願ひ致します。そして、副会長の小松さんです。子ども・子育て支援の新制度の設置法という、大変歴史的に大きな転換時に、このような大役を就任させて頂きまして、誠に気が引き締まる思いでございます。この場は固い場と思いますが、将来の子どもたちが日本を背負っていくことを考えましたら、少しでも子どもたちが健やかに育つように、私たち大人が良い環境を作っていきたいと思ひますので、どうぞ、皆様ざっくばらんに、和やかに色んな意見が出るように、ご協力賜りたいと思ひます。どうぞ、宜しくお願ひ致します。

それでは、次第に従ひまして、案件の説明を受けたいと思ひます。それが終わりましたから一つ一つご質問を頂きたいと思ひます。宜しくお願ひ致します。

(2) 子ども・子育て支援新制度について

【事務局 石橋係長】

子ども・子育て支援新制度についての説明

【谷向会長】

只今の説明で分かりにくい点、またご質問はございませんでしょうか。それではニーズ調査についての説明をお願いします。

(3) ニーズ調査について

【事務局 石橋係長】

ニーズ調査についての説明

【谷向会長】

ニーズ調査の内容についてご説明頂きましたけれども、調査項目につきましては国からの必須項目がございますので、これ以上削除することができないことになっておりますが、柏原市独自で追加した方が良い項目がありましたらご意見頂けたらと思ひますが、如何でしょうか。調査票を事前にご覧頂きまして、わかりにくいとか答えにくいとか、あるいは、もう少しこういう質問が必要ではないかなど、何かありましたらご質問頂きたいと思ひます。

【三木 賢蔵委員】

いつも学童で議題に挙がるのが4年生以降の対応をどうして欲しいのか、ということが良くあがります。どうしても国の調査というのは、10歳とか11歳ぐらいが設定されていないので、4年生以降のことについて、あまり調査されていないと思うのですが、その辺については柏原独自で項目とか増やす予定はないのでしょうか。

【事務局 石橋係長】

計画策定にあたりまして、ニーズ調査については国が基本指針というものを定めております。その基本指針の中では、就学前児童に対して調査しなさいというような形になっているのですが、就学前だけでなく就学児童も含めて市独自の調査の立て方にさせて頂いております。

【三木 賢蔵委員】

最初もらったものには柏原市独自は入ってないですね。

【事務局 石橋係長】

入っておりません。

【三木 賢蔵委員】

実際、小学校に入っている時期が一番、親御さんにとって心配な時期だと思います。その辺の充実について、もっとこれから必要な核だと思うのですが、そう考えるなら、あっても良いのではないかと思います。

【谷向会長】

具体的には就学児童用の調査票のところで、小学校4年生以降の学童保育や放課後の過ごし方についての項目が少ないのではないかと、ということですか。

【三木 賢蔵委員】

そうですね。

【事務局 石橋係長】

対象年齢を広げた方が良いということですか。

【三木 賢蔵委員】

できれば、対象が3年生までとなっているので、もうちょっと上でも良いのではないかと思います。今から追加ということは無理かもしれませんが。

【事務局 石橋係長】

このニーズ調査をかけて、計画が出来上がるのが2年後くらいになりますので、その時には4年生、5年生になっている方を対象に今回調査するのですけども。

【三木 賢蔵委員】

今現在の子たちが対象外ですので、もうちょっと先を見て、どうせ絡むなら思いっきり考えてやってもらった方が良いのかなと思うんですけどもね。

【谷向会長】

対象者が1年から3年生までですが、1年から6年生までの方が望ましいのではないかと考えていますよね。

【事務局 石橋係長】

調査対象については、申し訳ないのですが、4年生以降に広げるということではできません。

【三木 賢蔵委員】

その話し合いは、いったりきたりですよ。毎年、そのやり取りでやっています。

【事務局 石橋係長】

たとえば、1年生から3年生の方用の質問の中で、もうちょっと将来の学童とか、その辺りを聞くような項目を1年生から3年生の中に入れさせてもらうとかはどうでしょうか。

【三木 賢蔵委員】

学童と括ったらあれなんですけれども、本当に6年生、対象を小学生全員に広げて頂いて、親御さんや子どもさんが何を望んでいるのか、取り込んでも良いのではないかと思います。

【事務局 石橋係長】

項目についてはこのままで良いでしょうか。

【三木 賢蔵委員】

良いと思います。対象をもうちょっと広げて欲しいなと思います。

【事務局 石橋係長】

調査予定日が迫っているため、数自体はもう変更することができないと思いますので、例えば、600の中で、1年生から6年生に分けていくことについては、検討の余地があると思います。これについては、検討させていただきます。その結果、どうなりましたということはこの会議でご報告できませんので、ある程度、お任せ頂くということで宜しいでしょうか。

【三木 賢蔵委員】

はい。

【谷向会長】

3年生の親御さんは次年度からどうするのかと、とても頭が痛いところだと思いますので、今後、学童の充実を考えましたら、聞きたいところではございますが、今回の調査ではできる限りのところで検討頂けましたらと思います。

【中野 美奈子委員】

就学児童用の調査票の方を、やりやすいか、やりにくいかな通り回答を試みたのですが、4頁の一

番上の「母子家庭、父子家庭の場合は、該当するところのみお答えください」と書かれているのですが、一瞬、母子家庭・父子家庭の方が答える質問なのかなと思いました。この場合、ここに書くなら、「母親」「父親」の働いている状況についておうかがいします、母子家庭、父子家庭の場合は、該当するところのみお答えください」というように書いて頂いた方が戸惑わないのではないかと思います。

また、その下の問 9-1、母親と父親について横に続けて書くようになっているのですが、目線の動線的に、縦に、1週当たり、1日当たり、家を出る時間、帰宅時間として、母、父の回答欄を配置した方がやすいのではないかと思います。

あと、問 22 のところで、選択肢が下にありますが、選択肢を下から探すというのは、設問の配置的にどうかと思ったのですが、選択肢が左にあって、答えが右にあった方がやりやすいのではないかと思います。

【谷向会長】

時間も選択肢も縦に左右に並んでいる方が、良いということですね。

【中野 美奈子委員】

その方が目の移りがしやすいと感じます。また、問 30 で、これも感じる・感じないが下から上になっていますが、これだけ端折っている感があります。後ろを見たら空白があったりするのになと思いました。

最後に、問 31 の罫線の幅がちょっと狭いと思います。もうちょっと幅を広げるとかしても良いのではないかと思います。以上です。

【谷向会長】

ありがとうございました。実際に、解いてみることは大切なことだと思います。他にもご意見ございますでしょうか。

【藤宇 敦子委員】

就学児童の調査票で、7頁の上に「問 11 で「1. 利用している」を選ばれた方に引き続きおうかがいします」とありますが、頁がまたがったときは、このように書いて頂いたら分かりやすいですが、その下の問 12-3 のところでも、同じように「引き続きおうかがいします」というのが3つ続いています。それは、上の1つで十分意味がわかるのではないかと、私が回答してみたときに思いました。

【谷向会長】

ありがとうございます。一つ一つの書式につきましては、また事務局の方で調整頂けますでしょうか。

【事務局 石橋係長】

はい。頂いたご意見につきましては調整させて頂きまして、すべてご指摘頂いた通りになるのは難しいかもしれませんが、できるだけご意見を頂きました点を修正できるようにさせて頂きたいと思います。

【谷向会長】

柏原市独自で、これは聞いてみたいというのはございますか。

【事務局 山角課長】

北畑委員から言われたのですが、「アンケートを取るために、何か資料を付けることができないか」と言われました。「柏原市独自について何かありますか」と言われたところで、「柏原ってどのようになっているのか」わかりませんよね。北畑委員が言ったのは、まず過去5年間の保育所の園児数とか、幼稚園の園児数を付けた方が良いのではないかと、我々が掘めているのは、市が保育所に対して、予算をいくら取っているかはわかります。もし、そこまで書けるのであれば、その資料を付けた方がアンケートも答えやすいし、柏原市独自の数字は今、きっちりしたものはないのですが、保育所なんかだったら、人数はほとんど変わりません。ただ、公立の幼稚園の方の園児数がもの凄く下がってしまっています。これが柏原独自の今の色です。「そういうのがアンケートに答えてくれる人に必要ではないのか、それをつけて欲しいな」と北畑委員はおっしゃってありました。普通に生活していたら、保育所の人数はわかりませんよね。やっぱり、付けた方が宜しいでしょうか。

【小松副会長】

何の情報を提供すると、今ご提案されているのでしょうか。

【事務局 山角課長】

北畑委員は、『過去5年間、柏原市の公立の保育所何人入っています、幼稚園何人入っています、できたら平成24年度、お金をこんなに使いましたよ』ということがわかる数字を出してもらえないか」とおっしゃってありました。

【小松副会長】

お金というのは、具体的にどのようなお金のことを指しているのでしょうか。

【事務局 山角課長】

「市が公立保育所に対していくら使ったのか、認可の保育所に対していくら使ったのか、これがわかる数字があればな」とおっしゃってありました。

【小松副会長】

すみません。もう少し具体的にお願いします。例えば、幼稚園の先生のお給料であるとかも入るのでしょうか。施設を運営する費用であるとか、これらを全部足し算して、保育所であれば市からの補助金、というようなことを出すという意見ですか。

【事務局 山角課長】

それを出すのは具合が悪いのではないかと考えて頂くかもしれませんが、決算書というものがあります。これは公に出ているものですから、何も隠すこともないですし、ただ数字を拾ってくるだけです。それほど、時間がかかるとは思わないです。

【三木 賢蔵委員】

その数字を実際に公表して、柏原独自の考え方につながるのかと思ったら、そうでもないと思います。確かに、現況みたいなものは必要だと思いますが、それが特別に意味を持つとは考えにくいと思います。それなら、漠然とした意見になります。今は学区を決めています。児童会は小学校校区の児童会にしか預けられませんが、そういうのを撤廃してもらって、どこでも預けても良いとか、職場の近いところに預けても良いとか、もっと大きく大阪全域で考えるのならば、職場の近いところに預けられるのではないかと。そのように柏原独自で調査するのは良いのではないかと思います。これは個人的な考えですけれども。実際に、仕事場の近くで親御さんが働いているときに、近くに子どもがいたら安心するのではないかと思います。

【中野 美奈子委員】

学童で、支援学校にいつてらっしゃるお子さんが、地域の学童と一緒に過ごせることを聞いたことがあります。今のご意見、学区撤廃の話は良いのではないかと思います。それに対する設問が出てこないですけれども。それを柏原市でも考えてみたらと思います。

【谷向会長】

色々な角度から色々なご意見がアンケートの結果から出てきたら、大変参考になるとと思いますが、設問項目自体は、もう国の方から下がってきています。たくさん新しい項目を追加することは難しいということでしたので、そういう意見をなるべく、自由な意見を書いて頂けるような、行間が狭いという意見もありましたけれども、最後のところでご自由に書いて下さいということによって意見を吸い上げるということについてご検討頂けますでしょうか。

【事務局 石橋係長】

自由意見のところ、括弧して「幼稚園のことについて」や「保育所のことについて」など、具体的にもうちょっと書いた方が書きやすいのではないかと思います。できるだけ、書きやすい言い回しにさせていただきます。

【谷向会長】

課長の方からお話がありました、データ・資料についてですが、市の方から予算・決算について付けたら良いのではないかと意見はオープンだと思いましたが、実際どうでしょうか。

保育園、幼稚園、こども園の設置について、柏原市は公立の保育園・幼稚園、民間の保育園・幼稚園がございますが、こども園は無い状態です。これが今後恐らく変えていかないといけない、新制度で変わっていかざるを得ないということになっています。その転換のためのアンケートになりますので、どのような情報があれば宜しいでしょうか。

【近藤 温子委員】

先程の数字やお金というところ、たぶん、これを受け取った人は、数字では分かりにくいのではないかと思います。それよりも、柏原に、今、幼稚園がいくつで、具体的に何幼稚園があるという形で、私もこれを見たときに、柏原ってこども園やっているのかなと思ったのですが、現在、柏原にはこども園がなくって、こういう状態になっている、そういうのを資料として入れるのであれば、そういうものの

方が答える人にとっては、考えやすいのかと思います。それから、私が子どもを育てて思っていることは、気軽に遊べる公園が少ないなと思っていて、自分が思っているだけで校区の方が思っているかはわかりませんが、今回の調査は校区別に聞く項目があるので、柏原市として校区内に気軽に遊べる公園があるのかを把握する意味で、「いつも気軽に遊べる公園はありますか?」、「あるとしたらどこの公園ですか?」を聞く項目があっても良いのではないかと思います。これから少しでも公園について考えるという市の方向であるとしたら、これは私個人の意見ですが、公園増えて欲しいなと思っておりますので、そのように思っています。

【谷向会長】

校区によっては、随分遠いところの公園に行かれています方もいるのですか。

【近藤 温子委員】

そうですね。もしかしたら、遊ぶ公園がないから公園で遊べないとしら、校区に一つぐらいそういう公園を作るように考えていかないといけないのではないかと思います。

【小松副会長】

資料ということでしたら、やはり、予算というのがどこまで情報として必要かというのが、私はちょっと疑問です。むしろ、ニーズ調査で付けるのであれば、たとえば、幼稚園のご負担としてこれです。保育所についてはこのようなご負担です。それから、学童についてはこれだけのことがなされています。それ以外の事業としてはこんなものがあります。つまり、何を知っているかということが答える上でまず重要な資料であろうと、お金ということ言えば、市が間接的に関わってくることだと思いますが、保護者の方がそこに行くならいくらお金を必要とするのかということ、たとえば、調査票の中にも「お金がかかります」というのが項目としてあります。それは一体いくらなのかとか、お子さんがどのような立場なのか、保護者の方の子育てに関する資料というものが第一であり、もし付けるとすると、そのように思っています。

【西 育代委員】

内容的なものにつきましては、小松先生がおっしゃったような、お母さんが本当に必要とするような資料だけで良いと思います。金額がどうこうというよりも、こういう幼稚園はこんなことをしています、地域によってどういう幼稚園・保育所があります、一覧表があつたりするなど、こうするとこんな内容なことがありますなどについて具体的に書いた方が良いのではないかと思います。今のお母さん方はもの凄くご存知です。色んなことを言わなくても、ホームページを見られたり、本当によくお母さんの方がたくさん知っていらっしゃるなど、私たちは子育て支援をしておりますが、お母さんから情報を凄く頂きます。どこの幼稚園が、保育所があんなことしてるなどについて聞きますので、参考にする資料としては、一覧表のような、「ここに来たらこういうことがありますよ」などを具体的に挙げて頂けたら良いのではないかと思います。3歳児以下については、私たちが民生児童委員として見ている子育て支援事業としましても、色んなところで、アゼリアであったりとかほのぼの、地域、地域でたくさんボランティアの方が来ていらっしゃいますので、そういうところを知って頂きたい、利用して頂きたいためにも、調査とともにそういう資料をつけて頂きたいです。色んなところで活用して頂きたい、知って頂かないとどこがどう変わっていくのか、選択していくのか、これからどういうふう子どもを育て

ていくのかということがわかりませんので、そこから入っていくと思います。

【福岡 雅子委員】

調査するのに対象が2つあると思います。就学前の方については、やっぱり今から下のお子さんがいらっしゃるって、「どこに預けようかな」と思っておられる方がたくさんおられるのではないかと思います。そういう意味では現状をお伝えすることで、選ぶことができますし、「知らなかっただけで、柏原市はこういうこともしているんだ」ということで、色んな情報を収集して頂ければ、資料をつけて頂くといいかなと思います。あと、就学児に関しては、小学校に上がっておられるので、今まで子育てを経験してこられた中で、例えば、柏原市の活動の良い点とか、もうちょっと改善したら良いなというところを、やっぱり思われて子育てを通過した年齢になっていますので、やっぱり今の現状を見て、どのように思われているか、というところのご意見を聞く対象の方だと思います。そういう内容をもうちょっと最後の部分で書いて頂けたらこちらもあとで参考になるのではないかと思います。

【藤宇 敦子委員】

柏原市の中でも、子育てしやすい地域のところと、そうではない地域があると思います。そういう地域も、アンケートだけでは、どの方がどの地域で受けられているのか分からないので、例えば、公園が欲しいといった方は、「どの地域の方ですか」という欄を設けて、この地域の方が充実されているなどわかるように、それからもっと具体的に施策とかを考えて下さるときに、地域を区別することでできるのではないかと思います。

【谷向会長】

校区よりも更にということですか。

【藤宇 敦子委員】

たとえば、「0～3歳児の方がどのようなところを利用されていますか」という際に、アゼリアがある地域の方はベビーカー一つで行けますが、そこまで行くのにバス乗っていかなければならない方とか、そういうちょっと不便な地域にいらっしゃる方もいると思います。そういう方が遊べる場所がないと訴えて、その方々は外に出るのが嫌なのかなという変な誤解というか、出ることはできるが15分や30分圏内で行けるようなところだったらいくらかでも遊びに行くけれども、そうではなく、出るに出られない人もいますので、ちょっと地域も特定して、選べるようにしたら、どの地域の方がこういうふうなニーズを求められているかとわかるかなと思います。

【田中 昌之委員】

このアンケートそのものは、少子化対策のためのアンケートですよね。だから、どうすれば、私流で言えば、柏原市に若いカップルが住んで頂けるような環境をつくれるのかということ、柏原市としては非常に重要なことです。その中で、柏原市って、確かに公園がどうのということもありますし、学童のことも大事なことです。だけれども、少子化のためには、柏原市はまず柏原市に住んで頂くための最低限のことだけを聞かないと、たくさんのお金を聞きすぎると、焦点がボケてくると思います。お金のこと「非常に柏原市、今お金ないよ」ということをおっしゃりたいのではないかと思います。お金のことを言い出すとまた色んなところに話が行ってしまって、この国が決めたアンケートの基本

の文章内容がまたボケてくるので、そのことに基づいて柏原市が言われていると思いますので、触れるのは、次の段階の何か「青少年育成プラン」みたいなもので発揮されたら如何でしょうか。だから、あまり触れすぎると、何を聞きたいのか、この立案者は何を求めているのか、今度答えを出すときに、どのような答えを出していったら良いのか、私、わからなくなるような気が致します。だから、国が思っている焦点、今回それについて、作成されたら如何でしょうか。そのように思います。以上です。

【谷向会長】

基本は国のひな形に合わせて作成しております。

【田中 昌之委員】

色を付けるのは良いのですが、たくさん色を、みんなが思っている色をつけすぎると、焦点がボケてしまう、何のためにニーズかというのは、少子化をどのようにしたら止められるか、ということの最低限のことだけを聞きたいわけで、それ以上のことはまた、先のことに議論を持っていったらどうでしょうか。

【谷向会長】

ありがとうございます。色々出てきました意見を反映して頂けるところを反映して頂くということで、宜しいでしょうか。

【事務局 石橋係長】

一点、藤宇委員の「地域」というのは、問1で小学校区を聞きますが、それでは足りないということでしょうか。

【藤宇 敦子委員】

問1のところでわかったらだいぶ違いますね。

【事務局 石橋係長】

どこの地域かについては問1で絞ることができると思うのですが、先程のご意見は、問1で解決されるということで宜しいでしょうか。

【藤宇 敦子委員】

はい。

【谷向会長】

それから、資料についてですけれども、あまり資料がつかましても偏りができます。あった方が解答しやすいための資料と考えて頂きやすいための資料と、色々な資料があるかと思いますが、小松副会長、どうでしょうか。

【小松副会長】

調査などをよく仕事でするものですから、聞いて頂いているのだと思いますが、今先生がおっしゃられたような、わからないと答えられないという部分は確かにありますので、もちろんその情報を伝えるということはあるのかなと思います。その方がなんとなくのイメージとか、思い込みで答えて頂くよりは、「ああこうなのか、じゃあ」というように、やっぱり、当然調査の中では特定の誘導がある資料の出し方によっては、ここは注意していかなければと思います。

【谷向会長】

資料は付けるという方向でいきますか。

【田中 昌之委員】

すみません。会長さんがおっしゃっている資料とはお金のことですか。

【小松副会長】

いいえ。今、柏原市にはどういう幼稚園がありますと、それから、たとえば、学童としてはこれだけのことを活動されています、柏原市の子育て支援の活動はこんなものがありますと、お金ということであれば、負担はこんな感じです、というような意味での資料のイメージで申し上げます。

【田中 昌之委員】

ここにご出席の市民の代表であり、子どもさんが小学校にいておられるような母親は柏原市の公も民も保も幼もほとんどご存知ではないのでしょうか。ご存知なかったら提供しないといけないと思いますが、如何なものでしょうか。

【中野 美奈子委員】

知っていると思いますね。お母さん方の目線で行くと、こども園にかわって、どういうふうに施設型給付がかかるかということがわからないお母さん方が大半だと思います。たぶん行政的なお金の転換の仕方なのかなと思っているぐらいで。だから、移行するにあたって、いくら払えば良いのかというところに母親は敏感なのかなと。公立の保育所ならいくら、公立の幼稚園ならいくらとか、といったところにすごく興味を持つ、あと質、どういうサービスを受けられるか、ということを知りたいと思います。でもやっぱり、0～3歳児の親御さんに配るのなら、そういう資料は必要だと思います。

【事務局 山角課長】

資料作成時はつい数字で表したくなります。これはまずかったなと今、思っています。中野委員がおっしゃるように、お母さんは「こんなの知っているよ」という方もいらっしゃるかもしれませんが、お父さんはひょっとして何にも知らないかもしれません。実は、私がそうでした。

先程、教えて頂いたように、「柏原市にはこういう幼稚園・保育所があって、こんな支援センターがあって、このようなことやっているよ」というのを、柏原市の宣伝にもなりますので、いいなと思いましたが、どうでしょうか。

【福岡 雅子委員】

ここにいる経験のあるお母さん方はすごく感心があるので、広報もよく見えていますし、何かあったら子どもたちのために参加しようという思いでおられる方ばかりだと思います。でも、市民の方はそういう方ばかりではないと思います。広報も隅々まで目が届かなかったり、友達から情報を得たいということで、「こういうのがあるけど一緒に行かない？」と言われますが、そういうのもなかなか情報として入ってこない方も中にはいらっしゃるのではないかなと思います。

私はそういう方に対しての支援の方が大事ではないかと思います。だから、そういう意味でも、情報発信して頂くことがそういう方に向けて、そういうこともされてて、そういうことに参加したら友達できるかな、そういうところから支援、そういうところこそ、私は支援が必要ではないかなというふうに思います。

【田中 昌之委員】

すみません。幼稚園の立場として、保護者の負担額などの資料を作成していただくのは構いません。保育所の公立と私立は、保育料については同じだと思っています。幼稚園については公立・民間の格差があります。けど、そういった資料がアンケートに直接結びつくのかという気がします。

負担額に格差があるということを、みなさんに知らせて、「これ、なんや、私学の幼稚園のための広告か」、「何か訴えたいのか」というふうに捉われても、それもまた国が設計した設問や市が進めようとしている指針にのっかっているのかなという気もします。

柏原市は待機児ゼロですよ。まあそれだけ、人口が伸びていないということもあるし、保育所も良くやっているということもあるし、バランスが取れていると思うのですが、要は、私は少子化を止めるためのものとして、今回の計画・策定などを考えています。

アンケートは色々と範囲を広げてしまっているのかと。どこかに就園しなさいよというためのアンケートなのか、お母さん方が働きやすいためのものなのか、「みんな関心持ってよ」というふうにしかな私、考えてなくて、焦点がボケてしまうのが嫌なんです。どうでしょうか。皆さんのご意見伺いたいですね。

【藤井 宏之委員】

アンケートする目的というのが、この平成 27 年から始まる子ども・子育て支援事業計画を立てるためのアンケートですよ。そのアンケートで、国は何を考えているかと言いますと、3つあって、質の高い学校教育・保育の総合的な提供、これがハードとソフトでできているのかどうか、2つ目は保育の量的確保及び教育の質的改善がソフトとハードでどうなのか、3つ目に地域の子育ての支援の充実をはかる、これがハードとソフトでどうなのか、この3つの項目でハードとソフト、この6つの項目をわかりやすい言葉でアンケートにちりばめて、それとベースとなるような就労状況をアンケートする、というのであれば、結果として、みなさんが書いて出してくれたアンケート結果が支援の事業計画の根底に繋がっていくのではないかと思います。そう考えたら、田中委員がおっしゃる「焦点がボヤケず」につながっていくのではないかと思います。

【谷向会長】

今、おっしゃって頂きました通り、目的は新しい制度、こども園を含めて、幼・保・こども園が変わってきます。今までの保育園とは違う形の保育園になっていくと思います。大学の方では、保育士養成

のカリキュラムが今までとは変わります。こども園の先生、保育教諭というのを養成していく方によって変わっていくのですが、そういう幼児期の子どもの育成に関して制度を変えていくという、時代になってきております。そのための下地づくりということになりますので、今、藤井委員の方からおっしゃって頂いたようなベースを勘案すると、予算などのお金のことを入れた方が良く、入れなくてもいいということですか。

【藤井 宏之委員】

入れなくても良いと思います。本当にお父さん方、お母さん方が安心して国に自分の子どもの将来託せるような事業計画のもととなるようなアンケートにすれば良いと思います。質の高い学校教育は何なのか、もっと外で元気よく遊べるようなスペースがあるとか、どのようなスペースなんだ、もっと芝生がある公園なんだとか、色んなところで具体的に落とし込みができると思います。だけれども、ベースとして持っていなければならないところは、国から出ているこの3つをしっかりとやっていこうよというところに合致をするようなアンケート、それが全てではないですけども、それはしっかり入れておく、というようなアンケートにした方が、それを回答して頂いて、集計して、実務に落とすときには良いのではないかと思います。

【藤宇 敦子委員】

すみません。ちょっと質問しても良いですか。今度、認定こども園というのが保育所と幼稚園の機能を合わせ持つ施設として施行させる場合、今だったら、幼稚園だったら、たとえば仕事をお持ちではない方で、3歳から5歳児の方と決められた枠があって、私たちが子育てをするときはその枠に、例えば、働いていないから、働いていますという証明書を出せないから幼稚園に行かざるを得ないところがありました。ですから、幼稚園に行って、それはそれで充実して凄い幼稚園制度は良いと思っていたのですが、今度、こども園になったとしたら、0歳児から子どもを預けることができるようになるのでしょうか。もしそのようになるとしたら、今、たとえば、なんとかKIDSとか1歳半のちょっとした幼児教室とかあるじゃないですか、たとえば、ラッコ教室とかコアラ教室とか、あのようなものも全部廃止するような形で認定こども園というのを施行されていくのでしょうか。それとも、選べるのでしょうか。選択の自由はありますか。

【事務局 山角課長】

コアラ教室など、支援センターがなくなるのではないかと、という藤宇委員がおっしゃっていましたが、それは今、びっくりしました。全然、そのような考え方は、私たちは持っていません。逆に、私の個人的な意見ですが、支援センターとか、つどいの広場というのは、もっと増やす必要があるのではないかと考えています。ですので、なくなるというのは、そういう考えは出てこないです。認定こども園の0歳から入所できるかどうかについては、係長の方から説明をお願いします。

【事務局 石橋係長】

地域の子育て支援の部分については、特にこれからもっと制度の中で充実させていくという、課長が申し上げたように、なくなることはなく、これからさらに充実させていくということと、認定こども園になっても3歳未満の子どもさんについては保育に欠ける場合でないとは入れないです。

【藤宇 敦子委員】

では、お仕事をされていないと入れないということですか。

【事務局 石橋係長】

はい。お仕事をされている方です。新しい制度になれば、お子さんが保育や教育を受けようとした場合に、市町村に認定をしてもらう作業が出てきますので、3段階ぐらいに分かれていまして、3歳児以上で保育の必要がない子ども、3歳以上で保育の必要がある子ども、3歳未満で保育の必要がある子ども、そこで、長時間、短時間と分かれて、それぞれに認定、何号かが出ますので、それをもとに施設と直接契約をってもらう形になってきます。

【藤宇 敦子委員】

ありがとうございます。

【田中 昌之委員】

宜しいでしょうか。うちは関係が深いのですが、役所のように細かいところまでは読めていないのですけれども、「柏原市さんは認定こども園をされるんですか」とかつて聞いたことがあります。

公立の幼稚園や保育所がそのようなものをされると思っていたので、聞いたことがあります。横浜のように待機児があつたら幼稚園は認定こども園に持っていくことは多分にあります。ところが待機児がいなかったら別に役所は認定こども園をしなくても良いんです。だから、市そのものは「結構です」ということは言えるので、それはこれから役所のテーマになってくると思います。

だから、0歳からすぐに預けられるというのは今の保育所と同じだと思います。預けたい人もたくさんいますが、たくさん居れば居るほど、子3人に対し保育士1人の人員配置でしょうか。保育士が多く必要になり、その人件費をみなで持つので調整は難しいと思います。以上です。

【事務局 石橋係長】

新制度が施行されて、今の幼稚園や保育所が強制的に認定こども園にならないといけないというわけではなくて、なれるということです。今、たとえば「白鳩幼稚園が残ります」と言えば、残れますし、保育所も「今まで通り保育所としてやっていきます」ということであれば残れます。

【田中 昌之委員】

うちがそっちの方に手を挙げても、役所の方が認めるかは認めないかはわかりません。このテーマではないですけれども。

【事務局 石橋係長】

その辺り、ニーズ調査でどれだけの保育のニーズ量があるというのをお聞かせいただいで、5か年にわたって、たとえば0歳の希望が多いということになれば、民間さんに「認定こども園どうですか」ということをお願いしなければいけないとは思いますが。そのためのニーズ調査でもあります。

【中野 美奈子委員】

柏原市は待機児童がゼロというのを聞くのですけれども、0歳児から2歳児の受け入れ先が、ほとんど民間保育所の方に行かれている現状ですので、そういうのもアンケートから出てきたら増やしていくということですか。

【事務局 石橋係長】

量的拡大ということがありますので、そういうのがアンケートの中でもっと必要ということになれば、たとえば、極端に言うともう一園、どこか民間の保育所を建ててくださいとか、そういうことになってくるかもしれません。

【西 育代委員】

このアンケートは、1200名とありますが、今、全体でどのくらいの子どもがいて、対象者がどのくらいなのかが分からないんですけれども、何パーセントくらいの子どもたちなのでしょう。

【事務局 石橋係長】

就学前が3000名程おられますので、3分の1くらいの方になるかと思います。

【西 育代委員】

小学生が600というのは、まあまあ数は足りないですけれどもね。地域差というか、柏原でも国分方面、柏原方面、堅下方面と地域によってやはりお母さん方、住んでいる方々が必要とされるニーズというものが少しずつ違ってきていると思うので、総合的に見て、今回、みんながどのように思われているのかという調査、こういう調査はいつもある調査なのでしょう。一度だけ見たことがあります。

【事務局 石橋係長】

ニーズ調査ですか。

【西 育代委員】

はい。

【事務局 石橋係長】

これは、平成21年度にこの冊子（「子育てほっとプランⅡ」）を作ったときに行いました。

【西 育代委員】

作るにあたっての調査ということですか。

【事務局 石橋係長】

はい。内容はその時と若干変わっています。

【西 育代委員】

目的によって変わっているということですね。

【事務局 石橋係長】

前回、お配りさせて頂いている冊子の法律では対象がもう少し広いもので、今回の子ども・子育て支援法に基づくものは、国の指針では就学前児童になっているんですが、前回のものに合わせ、3年生まで聴きます。

【西 育代委員】

先程、三木委員がおっしゃったような就学児童の対象人数については考えるということで、とりあえず、言われているのは、今回は3年生までということですね。

【事務局 石橋係長】

今考えているのはそうです。

【谷向委員】

他にご意見ございませんでしょうか。私としては、福岡委員からおっしゃっていただいたように、今回、未就園のお子さんが対象になっておりますので、就学前の児童調査には一覧のようなものを入れていただいても。柏原の幼稚園、保育園、そこに保育料までは、たとえば保育園は世帯収入によって違いますのでなかなか書きにくいかと思います。そういうのは省いて、何かこういうものがあるんだという、こちらは資料として付けていただいても良いのかなと思います。如何でしょうか。

【事務局 石橋係長】

料金的なものはなしで、一覧ということで宜しいでしょうか。たとえば、幼稚園に預けたいですかという質問がある中で、保育料が出ていると、この額だったらやめておこうかなということにもなると思いますので、そういうのをやめて、単純なニーズとして聞くのであれば、一覧だけの方が良いのではないかと思います。幼稚園と保育所ですね。

【三木 賢蔵委員】

放課後児童会も。

【事務局 石橋係長】

児童会は各小学校に全てありますので入れさせていただきます。これで宜しいでしょうか。

【谷向会長】

他に何かありますか。そうしましたら、少し詳細・書式などについてはプロの方の方にも、それから事務局の方にもご検討をお願いするところが残りしましたがけれども、その辺は事務局に一任ということで宜しいでしょうか。そうしましたら、事務局に詳細、再検討、ご意見が出たところは再検討頂きまして、ちょっと簡単な資料の一覧表をつけてもらうということで、調査を実施させて頂くということでご了承頂きますでしょうか。

【委員全員】

はい。

【谷向会長】

ありがとうございます。そうしましたら、以上で本日の案件は終了致しました。次回の予定について、事務局の方からお願い致します。

【田中 昌之委員】

すみません。先程、公園のことをおっしゃってございましたけれども、資料をつけられるのであれば、柏原市に広い公園があるならば、そのような公園について広く知らしめたら保護者も喜ばれるのではないかと思います。

もし、出されるのであれば、公園のことも意見が出ていたので、あっても良いのかと思います。若い世代にこんなに柏原市って素晴らしいところだということを書いて頂きたいですけれどもね。

それは会長の方に一任致します。

【谷向会長】

本当は冊子がありますよね、お母さん方に送られている。どこのスーパーにおトイレがあるかなどを含めたような、そのようなものありませんでしたか。

【中野 美奈子委員】

子育てマップですか。こども課に置いてありませんでしたか。

【事務局 石橋係長】

「子育てほっと情報」、これを一冊入れられたら良いのですが。

【谷向会長】

その中から抜粋していただいて、柏原市の子育て支援と幼保の現状がわかるような資料を一枚つけて頂けますか。

【田中 昌之委員】

私の意見ですけれども、一任致します。

【谷向会長】

公園もあるところにはあるみたいですし、ないところにはないですね。使いやすい公園というのがなかなか。

【中野 美奈子委員】

広い公園というのが、今、作っていらっしゃいますよね。

【事務局 杉本課長補佐】

恩智川の遊水地ですが、あれはまだまだ行けるような状況ではないです。府とのやりとりの中では10年後とか長い期間がかかるかもしれません。

【田中 昌之委員】

私が言っているのはそこではなくて、山ノ井公園や、石神社、その辺りの公園が良いなと思っています。

【西 育代委員】

私の時代は公園デビューと言いますか、子どもを連れて公園に行きましたが、最近、そのようなお母さん方を見なくなりました。施設に行かれています方が多いのかなって思うように思います。暑いとか、寒いとか、子どもたちが土をいじって汚いとか、やっぱりきれいなところで、揃った遊具もあるところが選ばれるのかと思います。どれだけ公園を望まれているのか知りたいかなと、今日お話を聞いていて。逆にどんどん潰れてきていますね。公園も、大きい、小学生も行きたいですけども、ボール遊びがダメとか、凄く規制があり、道でもできない、空き地でもできない、かえって小学生の方が大変だと。色々習い事とか忙しくあれなのですけれどもね。学校を開放したりするとか、そういう広いところで十分に遊ばせてあげるといような方が。今は、お母さん方のニーズ、どういうふうに求めているのかと、凄く知りたいと思いますね。してあげているではなくて、お母さん方はやっぱり何かして欲しいと思っているんです。やっぱり与えるのではなくて。難しいかと思います。

【小松副会長】

すみません。一点、確認させていただきたいのですが、国なり府の方からそういう余計なものは入れるなという、指示は特になく、場合によっては他のということによって来ているということでしょうか。

【事務局 石橋係長】

なるべく削らないでくださいということですが、追加はダメとは言われていません。

【小松副会長】

資料など余計なものを入れるなという指示もありませんか。

【事務局 石橋係長】

そのような指示は特にありません。

【小松副会長】

もし統一的なものを、国なり府が考えていたりすることもありますので、ちょっとそれも事務的に確認して頂いても宜しいでしょうか。

【事務局 石橋係長】

確認した上で可能であれば、先程意見いただいたような形で、保育所・幼稚園、学童等の一覧を一枚入れさせていただきます。

(4) 連絡事項

【事務局 石橋係長】

先程、スケジュールを申し上げましたが、この後ニーズ調査を実施致しまして、その集計の結果を2月頃に第2回子ども・子育て会議で報告させて頂きたいと思いますので、次回は2月になります。ただ、会長・副会長の予定をお聞きさせて頂いて、そちらに合わせさせて頂く形になりますので、また、日が近づきましたら日程調整をさせて頂きまして、ちょっと早めにご連絡させて頂くようにさせて頂きます。

8. 閉会

【谷向会長】

それでは、最後に小松副会長の方から閉会のご挨拶をお願い致します。

【小松副会長】

今日はお疲れ様でした。私、まだわからないこともたくさんありまして、2年間ですけれども、この後、長い間色々なことに関わってくる計画だと思いますので、はじめに会長からもございましたけれども、意見をたくさん出して頂いて、良い案が出来たらと思います。

これからもどうぞ宜しくお願い致します。